

校歌

私

は小学校時代に二度転校している。つまり三つの小学校で勉強したことになる。一校目と二校目は、それぞれ一年間のみ、三校目で四年間在籍し卒業した。一校目と二校目の校歌は全く覚えていないが、四年間在籍し卒業させて貰った三校目の小学校の校歌は、疎覚えながら記憶に残っていて、正しいかどうかはあやしいが出だしは多少歌える。私の小学時代は、元旦に登校して全校集会で校長先生のお話を聞き、校歌を歌って新年を祝った。そして帰りには紅白のお饅頭を頂いた。あの凍えるほどに寒い体育館に整列して皆で校歌を歌った記憶が今なお私の胸に宿っていて、時折、懐かしく思い出すのである。

中

学では転校はなかった。三年間通った中学校でも事あるごとに校歌を歌った。歌わせられた。しかし、校歌を歌うことを嫌だと思っただけではない。強いて言うならば、校歌を歌うことに誇りを感じていた。中学時代の修学旅行は日光と東京だった。夜行の急行列車に十数時間も揺られて上野に着いた。見学は貸し切りバス。昔の中学生は、バスガイドさんの言うことも素直に聞いた。名所・旧跡の説明や歌としてクイズなど、軽妙なおしゃべりでバスガイドさんは私達の旅行を楽しく意義あるものにしてくれた。いよいよ、バスガイドさんのお別れの時がやってきた。誰から言い出したのだろうか。バスガイドさんへのお礼に、私達は校歌を歌って感謝の気持ちを伝えた。

高

校時代、入学早々の新入生は昼休みに体育館へ集められて、応援団の指導のもと校歌を叩き込まれた。私は、それも嫌だと思っただけではない。それよりも、自分がこの高校の一員として認められたという喜びの方が大きかった。あれは、高校三年生の夏休みだったが、クラス全員で岩崎の十二湖にキャンプに行ったことがある。あの

頃は、フォークソングが流行り出した頃で、キャンプファイヤーではギターを鳴らしながら皆で「星に祈りを」や「小さな日記」などを歌った。そして、締めくくりとして校歌を歌ったことを覚えている。

私

が教員となった頃も、生徒達は元気に校歌を歌っていた。しかし、時は移り十八年ぶりに高校現場に戻って吃驚した。生徒達が、校歌を歌わないのである。分校ということも理由だったのかも知れない。中心校の校歌をそのまま分校でも歌う。しかし、分校と中心校では、歴史も違えば土地柄も違う。校舎から見える風景も異なる。当然、校歌の歌詞への共感が薄れる。致し方ないと思いつつも、校歌を歌うことを推奨した。分校には音楽の授業がなく、音楽教師もいなかったが、ピアノに長けた先生がいた。その先生を中心に校歌指導を度々行った。半年もしないうちに生徒達に校歌が定着した。

校

長となつて赴任した高校も、殆どの生徒達が校歌を歌わなかった。音楽の先生は非常勤、音楽を選択している生徒も少ない。時間を遣り繰りし、非常勤の音楽の先生にお願いして全生徒の校歌指導を行った。登下校時に校内放送で校歌を流した。卒業式における校歌斉唱は、目を見張るほど立派だった。一年間の校歌指導の成果が現れた。その原動力となったのは、教師達のやる気と努力だった。担任を中心として午前部、午後部、夜間部で競うように校歌を指導し、生徒達をその気にさせた。教師が一丸となれば、生徒達は数ヶ月の内に校歌を歌うようになることを先生達は実証してくれた。有難いと思っただ。その高校の離任式、私は生徒達と先生方が一緒になって歌う校歌に送られ転勤の途に就いた。

(元青森県立北斗高校校長)